

オンライン朝会「デジタルとアナログ」2/21

今日は、「ICT」と「言葉」の2つの力のお話をします。

富士見丘小学校では、2年ほど前からICTを効果的に活用して、誰もが分かりやすい授業を工夫しています。1年前には1人1台タブレットが導入されて、皆さんも上手に使いこなしています。そして、この2月からはすべての学年で週1回のハイブリット授業（オンライン授業）を開始しました。少し前には想像できなかったことばかりです。授業のスタイルがガラッと変わりましたね。

いずれも一人一人が自分に合った学習をより深くするためのものです。皆さんは、文房具と同じように、ICTを自分の「賢い道具」として使いこなしています。素晴らしいことです。

では、ICTがもっともっと便利に広がっていくと、紙の本や教科書はなくなってしまわないのでしょうか。そうは思えません。なぜなら紙に印刷された活字、鉛筆や筆でかく文字や図形、絵などは、ICTには替え難い、優れた面があるからです。

校長先生もパソコンを便利に使っていますが、物語などの本は、紙の活字でしか読みません。文章や図もほとんどパソコンで作成しますが、はじめに文章の構成を考える時は、紙に鉛筆で書いています。最後も紙に印刷して確認しています。特に深く考える時は、デジタルではなく、アナログを使っていることに気付きました。

思考力における紙の優位性は、読むことにも、書くことにも変わらないようです。これからの時代も、デジタルを使いこなす一方で、印刷された活字の本に親しみ、言葉を鍛えることが、人間らしい思考力を養っていく上で、とても大切なことではないかと思えます。

みなさんも、ぜひ、読むこと、書くことを大切にして、言葉の力を鍛えてほしいと思います。

先週表彰した「読書感想文」「思索チャレンジコンテスト」「調べる学習コンクール」は、まさに『言葉の力』そのものです。みなさんが自分の考えを自分の言葉で表現しています。

校長だより2月号には「思索チャレンジコンテスト」の入賞作品を掲載します。校長賞には、その選定理由とともに、本校の学校図書館スーパーバイザーの藤田利江先生から書評もいただいています。

お友達がどのような作品を書いているのか、ぜひ読んで、これからの参考にしてください。